

## 思い出と写真に関する調査結果発表

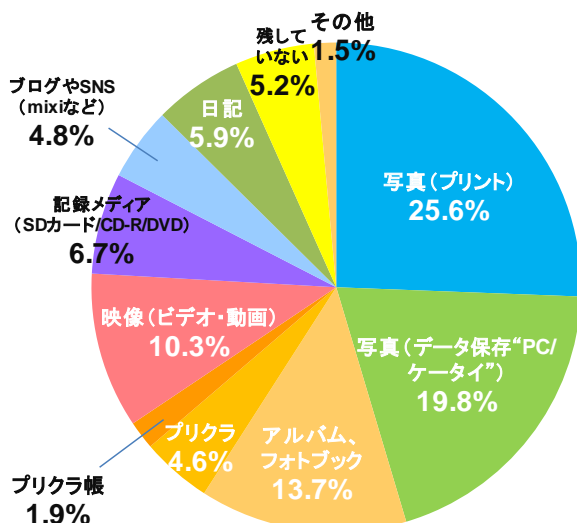
～86.8%が思い出は大切、35.6%が思い出の記録し忘れで後悔～

明るい未来を研究する「思い出づくり研究所」は、思い出の重要性とその記録方法としての写真の有効性を探るため、全国の15～69歳の男女1,200人を対象にインターネット調査を実施しました。国内におけるデジタルカメラの世帯普及率:71.5%(\*1)、携帯電話・PHSの人口普及率:96.3%(\*2)、パソコンの世帯普及率:87.2%(\*2)などデジタル家電の急速な普及とともに、個人が保存可能なデータ量も増加し続け、オーバーフローし管理が難しくなりつつある状況下で思い出の記録は、大切に保存されているのだろうか。

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 調査目的: | 思い出と写真に関する調査             |
| 調査方法: | インターネット調査                |
| 調査対象: | 15～69歳の男女(中学生は除く)計1,200名 |
| 調査日時: | 2010年4月末                 |

本調査から、全体の86.8%が「思い出は大切である」と回答、全体の74.0%が「写真を撮影することが好き」という回答から、多くの人々が思い出を記録する方法として、写真を多用していると言えます。その一方、「思い出を何かの形に残しておけば良かった」という回答が全体の35.6%と、事後になって思い出の重要性に気づく人も少なくはないということが判明しました。

思い出をどのような形で残しているか?(n=1,200、複数回答可) \*全体を100%として算出

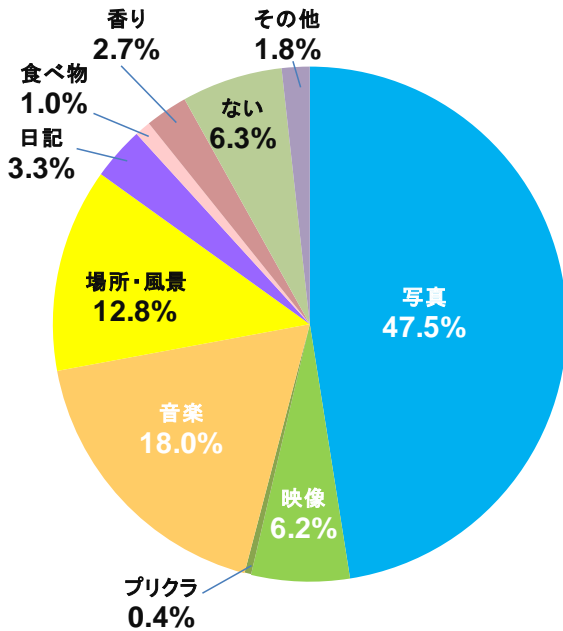


写真(プリント)が25.6%、写真(データ保存)が19.8%、アルバム・フォトブックが13.7%という結果から、性別・年代に関係なく、思い出を残す形として、写真が最も多いという傾向が明らかになりました。映像(ビデオ・動画)は、10.3%に止まりました。

\*1)2010年3月 内閣府調べ:『消費動向調査(全国、月次)平成22年3月実施調査結果』

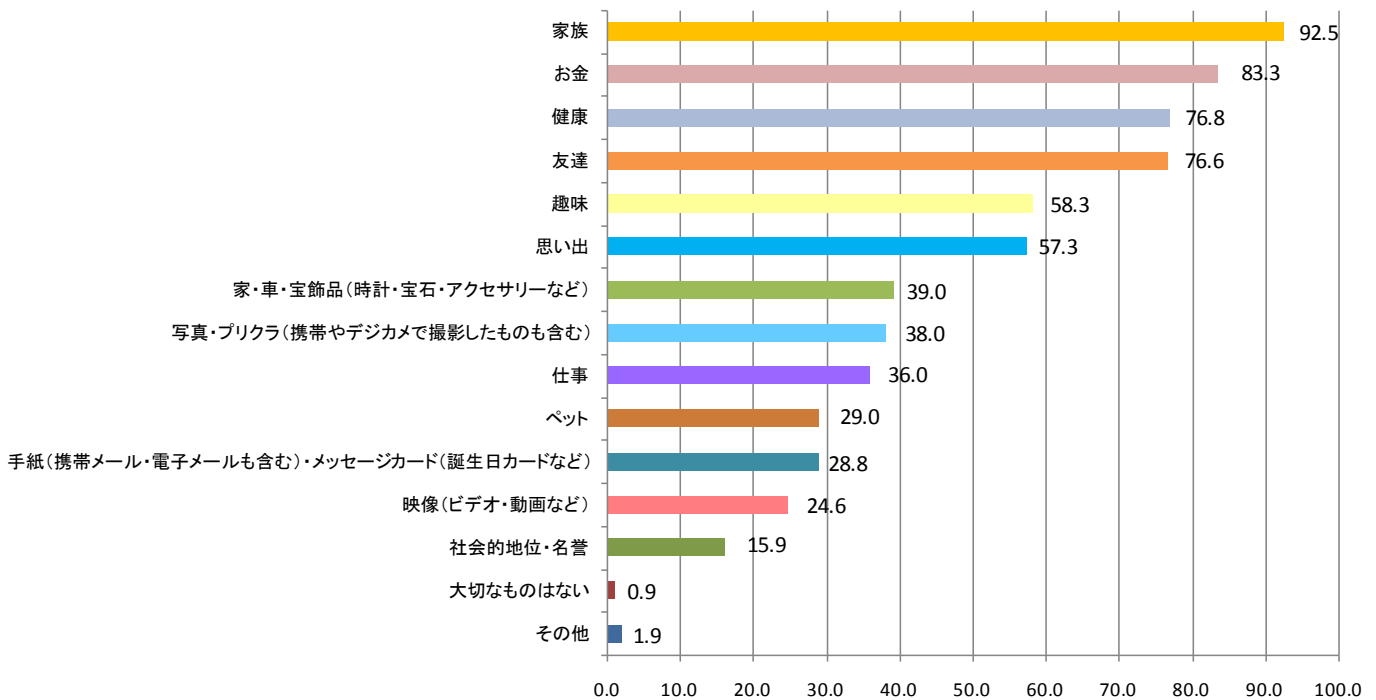
\*2)2010年1月 総務省調べ:『平成21年「通信利用動向調査」の結果』

## 忘れていた過去の出来事や記憶が甦るきっかけとして最も影響力があるものは？ (n=1,200、複数回答可)



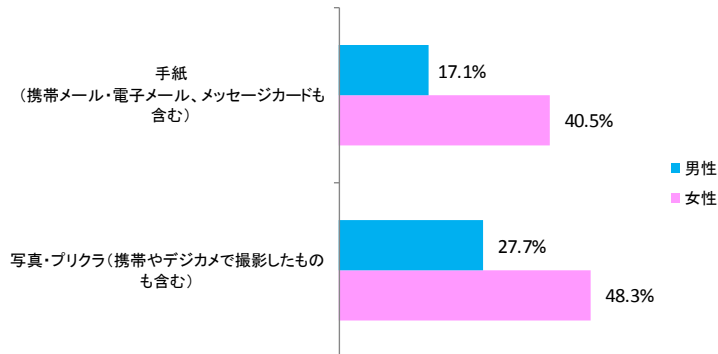
写真が 47.5% で最も多く、次いで音楽が 18.0%、場所・風景が 12.8%。映像が 6.2% に留まり、写真と比較すると約 1/7 となり、思い出を可視化できるものとしては、写真が最も有効的と考えられます。

## 大切であると思うものは？ (n=1,200、複数回答可)



思い出は、全体で 6 番目に多くの人を選択するも、写真や手紙、映像といった思い出を記録するものとして有効的であると考えられているが順位は低い。思い出は自身の記憶の中にあるということで安心し、記録として残すことの重要度が低い傾向にあるとも言えます。

## 上記質問で大切なものは「手紙」あるいは「写真」と回答した人の性別比率



手紙と回答した人の比率を見ると、女性は男性の2.3倍以上、写真に関しては1.7倍以上と、女性のほうが思い出を記録し、形に残すことが重要であると考えられる傾向が強いという結果がでています。

本調査結果から、現代社会において老若男女・性別を問わず思い出が大切であり、写真やアルバム、フォトブックといった可視化できる形として記録・保存する人は多く、今後も増加すると予測されます。しかしながら、思い出とは現在進行形ではなく過去の出来事であるため、思い出を未来へ残したいと考える当事者がその都度、何が未来にとって大切な思い出であり、何を記録すべきかという判断をすることは難しいというのが現実です。

思い出づくり研究所の今後の研究課題として、明るい未来のための思い出づくりの重要性を提唱するとともに、

- ① 何のための思い出かを明確にすることによって、個人が保存すべきものと、保存しなくても良いものの区別を容易にする
- ② 思い出に大切なタイミングは個人の経験値によるものが多いため客観性を持たせる
- ③ 制約を付けることでデータ量を抑制させ、整理・管理を容易にする

ことを調査・研究し、発表していきます。

思い出づくり研究所 (<http://omoidezukuri.jp>) について:

2010年5月25日、イメージ・コミュニケーション企業である株式会社キタムラ(本社:神奈川県横浜市港北区、代表取締役社長:浜田 宏幸)が、「すべての人を、写真の未来へ。」という企業理念を具現化する活動の一環として、野島久雄(成城大学社会イノベーション学部教授)氏を研究所所長として迎え、発足しました。野島所長の専門分野である、人の思い出を保存するための技術とその活用を考える「思い出工学」の見地から、思い出と写真の関係性について調査・分析・考察し、社会へ情報発信することを目的としています。思い出工学とは、工学的な側面と心理学的な側面があり、この両面から個人に属し・管理し・楽しむ情報コンテンツとしての思い出の研究を指しています。

### 《本件に関するお問い合わせ先》

「思い出づくり研究所」事務局(ブルーカレント・ジャパン株式会社内)

担当: 粕谷・関口・西田 TEL: 03-6204-4141 Fax: 03-6204-4142

E-mail: [kumiko.kasuya@bluecurrentpr.com](mailto:kumiko.kasuya@bluecurrentpr.com) [daisuke.sekiguchi@bluecurrentpr.com](mailto:daisuke.sekiguchi@bluecurrentpr.com)  
[koichi.nishida@bluecurrentpr.com](mailto:koichi.nishida@bluecurrentpr.com)